

報道関係者各位

山梨県富士山科学研究所／国立大学法人筑波大学／長野県環境保全研究所

特定外来種ガビチョウが生息域を高山帯へ広げていることを確認

山梨県富士山科学研究所、筑波大学、長野県環境保全研究所等の研究グループが、日本国内で分布を拡大し続けている侵略的外来種ガビチョウが長野県内の高山帯に生息していることを国内で初めて記録しました。本成果は12月15日付けで学術誌 Bird Research に掲載されました。

概要

- ガビチョウ (*Garrulax canorus*) は 2005 年に環境省により特定外来生物に指定され、日本生態学会が定めた 日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選定されています。
- ガビチョウの本来の分布は中国南部から東南アジアであり、日本では 1980 年代に北九州市で野外記録が得られて以降各地で分布を広げています。低地や積雪の少ない地域で分布を拡大していた本種ですが、近年は山間部にも進出していることが示されてきました。しかし、樹林帯を越えた高山帯では未確認でした。
- 研究グループでは、2024 年に中央アルプス国立公園の高山帯で本種の鳴き声を初めて記録しました。また、中央アルプスの 亜高山帯の複数個所でもガビチョウのさえずりを確認しました。
- 山梨県富士山科学研究所もこの研究に参画しており、県内の標高 1500m 以上の山地帯における本種の録音の提供を行いました。

研究の意義

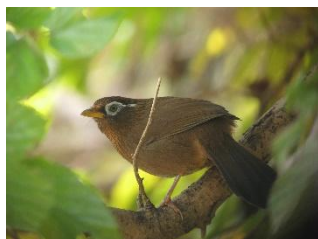
今回の研究はガビチョウが繁殖期に高山帯を利用しはじめたことを示唆しています。ガビチョウは資源をめぐる競争や卵の捕食を通して在来の鳥類に悪影響を与える可能性があります。高山帯への外来鳥類の侵入は国内でも例がなく、今後は高山帯や亜高山帯で本種の継続的なモニタリングが必要であることを示しています。また、ガビチョウの定着が進む場合、在来の高山性鳥類に与える影響の解明が急務であることを示しています。

※掲載論文リンク

URL: <https://doi.org/10.11211/birdresearch.21.S6>

※詳細は、共同プレスリリース資料をご確認ください

URL: <https://www.tsukuba.ac.jp/journal/biology-environment/20251215140000.html>



ガビチョウ（写真は茨城県内で撮影）



ガビチョウが確認された中央アルプス高山帯

お問い合わせ

（広報）広報交流担当 小笠原 0555-72-6206

（研究）水村春香 0555-72-6211（代）